

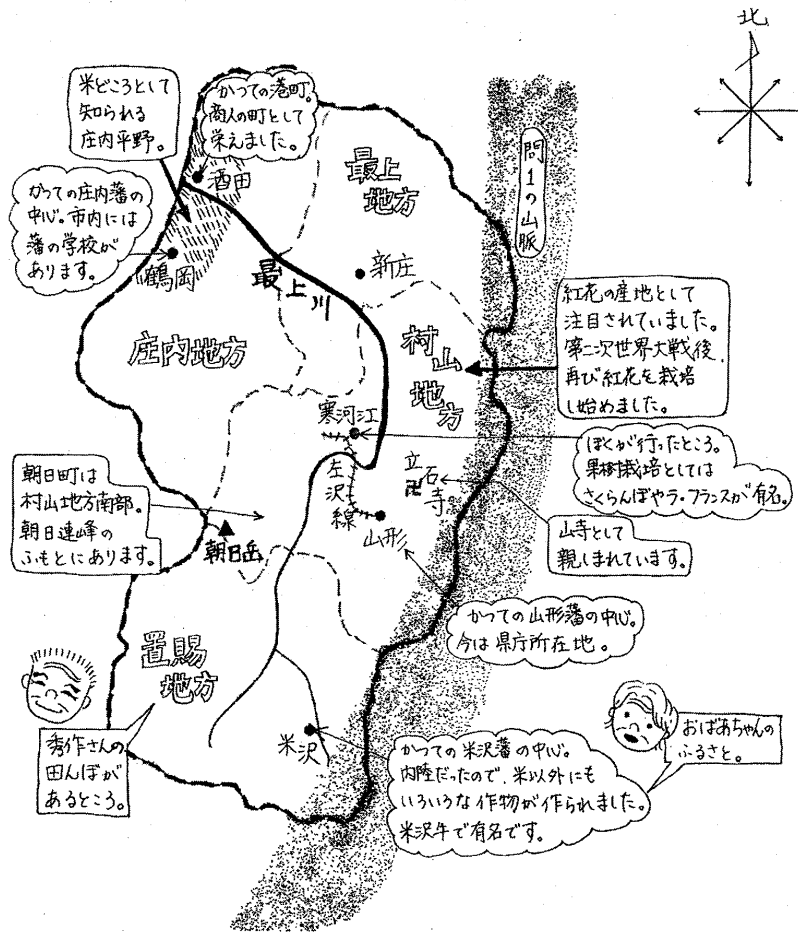
社 会

(2009年度)

《注 意》

1. 試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開けてはいけません。
2. 問題用紙は10ページまであります。解答用紙は2枚です。試験開始の合図があったら、まず、問題用紙、解答用紙がそろっているかを確認、次に、すべての解答用紙に「受験番号」「氏名」「整理番号（下じきの下方の番号）」を記入しなさい。
3. 試験中は、試験監督^{かんとく}の指示に従いなさい。
4. 試験中に、まわりを見るなどの行動をすると、不正行為^{こうい}とみなすことがあります。疑われるような行動をとってはいけません。
5. 試験終了^{しゅうりょう}の合図があったら、ただちに鉛筆^{えんぴつ}を置きなさい。
6. 解答用紙は書いてある方を表にして、上から、(その1)(その2)の順に重ね、全体^{いっしょ}を一緒に裏返して置きなさい。
7. 試験終了後、書きこみを行うと不正行為とみなします。

山形県地域マップ



タカシ君が作った「山形県地域マップ」

1 ページの地図と次の文章を読んで、7 ページから 10 ページの問いに答えなさい。

夏休み、山形の農村体験合宿という企画があった。「タカシ君、参加するよね。あ、きゅうりとかトマトとか、おいしいんだって」といわれて断れなかった。ぼくが行ったのは、最上川中流にある寒河江市の農家だった。山形駅から左沢線を列車で行くと、左側に朝日連峰が見えた。とてもよい景色の村だったが、悪い予感があたってしまった。畑には虫がいっぱいた。ぼくは虫が大きいのだ。農業なんて得意な人がやればいいと心から思った。

東京に帰ってきて、近所のおばちゃんに農村体験の話をした。「大変だったねえ。でも、山形の農家もがんばっているのね。日本の農業はもう限界だ、といわれているのに」。それを聞いてぼくは事前学習で調べた日本の農業について、得意になって話をした。

「第二次世界大戦後の山形県は、い、さくらんぼなど果物の栽培も盛んだし、米の生産もすごかったんだ。でも、最近では米の消費量も減ったし、山形県に進出した企業も海外に工場を移して、だんだんと経済的に困るようになってしまった。その前から若い人は都会に移ってしまっていたし、農地も荒れてしまったんだよ。今、日本の食料自給率は 40% くらいだから、支援する政策が必要だと思うな」

一気に話したら、おばちゃんが口を開いた。「よく知っているのねえ。でも、山形県といっても、全部の地域が同じじゃないのよ。おばちゃんは米沢からお嫁に来たけど、他の地域と十把ひとからげにして考えないでほしいな」

ぼくは、意外だった。「えっ、でもあんまり変わらないよ。どこでも農業やっついて過疎化とか、深刻なんですよ」

するとおばちゃんはこう続けた。「東京から来たお役人がそんなふうに考えていたわ。でも、一つ一つ違う地域にちゃんとあった政策をやってくれないと困るのよ。もちろん、タカシ君みたいに、虫がきらいで農業が苦手な人がいてもいいけれど、そういう人が地域のことを何も知らないまま、支援する政策を考えても意味がないのではないかしら」

ぼくは、おばちゃんが話していた山形県の地域が一つ一つ違うということを調べるために、図書館に向かい、まずは山形県の歴史から調べてみることにした。

この地方の本格的な開拓は 8 世紀に入ってからだった。近畿地方の朝廷から送られた人びとが、水田を作り始めた。そういう人の心のよりどころとして、う、立石寺というお寺が建てられ

た。でも、その時代、え この地方には「蝦夷」と呼ばれる人たちがいた。「蝦夷」とは、いやしくおとった人びとという意味らしい。朝廷は「蝦夷」が自分たちよりおとった存在と考えていて、服従させようとしたのかな。

江戸時代になってこの地方の水田開発は進められた。現在の山形県にあたる地域には、藩や、幕府が直接支配する天領がいくつもあった。それらの藩や天領では、それぞれ違う政策が行われていた。

庄内藩(最上川河口地域にあった藩)は、米どころとして栄えていたけれど、幕府が藩主を交替させようとしたときに、農民たちは年貢などの面で自分たちが不利益を受けるのではないかと心配して、幕府の政策に反対する一揆を起こした。

お 酒田の町(庄内藩の港町)は、北前船などの立ち寄り港として栄えていた。江戸や大坂に米を売ったり、京都の商人に紅花などの特産品を売っていて、商人たちは、町を自分たちで運営する力をもっていた。

最上川の上流にあった米沢藩では、財政難を乗り切るために、紅花だけでなく、絹織物や多くの商品を作らせた。優秀な藩士を育てるための学校を開いたりもした。このようにして、藩のたて直しに成功した。

か 明治になると、政府は廃藩置県を行い、いくつかの藩や天領をまとめて山形県とした。大正から昭和にかけて、この中央集権化の動きは続き、江戸時代までみられた地域ごとの特色は、少しずつわからなくなっていく。き お祭りや行事だけは地域らしさが残っていたけれど。

歴史を調べてわかったのは、おばあちゃんのいうように、昔の山形県は、地域ごとに特色があって、その特色をいかした生活をしていたということだ。でも、地域にあった政策がなぜ必要なのかよくわからなかった。そう考えながら家に帰ると、農村体験をした農家からメールが届いていた。

いまや米作りの農家はくらしていけません。先日、置賜地方に住むおじいちゃんと話をしました。おじいちゃんは秀作さんといいます。秀作さんは「80歳までは現役だべ」といいながら、米を作ってきました。「元気だねえ、じいちゃん」といったわたしに、秀作さんはこういいました。「来年からおらの田んぼ、もうダメかもしれない。会社勤めで農業をやらない息子から、オヤジはぼくらの給料で米作ってるっていわれてんだ」。実は、昨年、置賜地方の農家が作った米をJAに売った値段は、かかった費用よりも安く、作らないほうが節約になるのです。それでも秀作さんはこういいます。「小さい頃から親しんできた田んぼだべ。ここで育ったのだもの、ここで終わりたいよ」

ぼくは、農業をやりたいはずの秀作さんが、米を作り続けられないということを知っておどろいた。得意な人が農業をやればいい、と思っていただけれど、実は今の日本ではそれもできない地域が出てきてしまっているんだ、ということをはじめて知った。ぼくが農村体験をした寒河江の農家は、まだ農業を続けるだけの力があつたけれど、山がちな置賜のおじいちゃんのところは、もう限界なんだということがわかった。地域やそこに住む人にあつた政策が必要だということが少しわかってきた。でも、地域にあつた政策って、どうやったらうまくいくのだろうか。過疎とか高齢化とかいう問題もあるし、単純に農業をたて直す政策を行うだけでは解決できないにちがいない。

* * *

さて、ここまで読んでみなさんはどのように考えましたか。タカシ君は、一つ一つの地域にあつた政策が必要な理由を考えてみたものの、どうやらまだ答えは出ていないようです。問題を少し整理してみましょう。

タカシ君は、江戸時代の山形県には、地域ごとに特色があつたことを調べました。ひとくちに地域といっても、藩や天領をさすこともあれば、領地の中の村や町だけをさすこともあります。これらの地域の特色は、だいたい江戸時代に作られました。江戸時代、村でも町でも、自分たちが住む地域のことは、自分たちの力で支えていました。

山形県の場合は米作りに適した農村が多く、村であつた米は町の人びとに売られました。さらに、米以外の農作物を作ることも可能でした。米が大坂に売られたのにたいして、く 紅花のような作物は、京都の商人に売られていました。もちろん、農業の技術は今ほど進んでいませんから、米の不作による飢饉はありましたが、備蓄を怠ったりした地域では、多くの餓死者を出すこともありました。また紅花作りがもうかるので、米作りをないがしろにすることもあつたようです。しかし、どの場合も、地域に住む人びとは、自分たちの住む地域を自分たちの力で支えるということを基本にしていました。け また藩主は、紅花などの商品を作ったり売ったりすることを農民や商人たちにすすめましたが、米作りで藩のやりくりができるように、藩内に目を配っていたのです。

それでは、現代はどうなっているのでしょうか。メールにあるように、地方では、もはや自分たちの力で地域の生活を支えることができない状況にあります。農業で暮らしを立てている地域ではなおさらです。地域の力が弱まったため、政府の支援にたよるようになりました。しかし、政府の政策は全国共通で画一的なものでしたから、地域の特色をいかした町づくりにはあまり役立ちませんでした。タカシ君が、山形県は全部同じだと思ったのも、無理はありません。

さらに、タカシ君のいうように、過疎や高齢化の問題も深刻です。どうすれば過疎や高齢化を

克服できる地域を作れるのでしょうか。大事なことは、一つ一つの地域の生活が成り立つようにすることです。秀作さんのように農業をやりたい人の生活が成り立たない今の状況を改善するために、何かできることはないでしょうか。

改善しようとする動きは、現在、日本のあちこちで少しずつ始まっています。しかし、そのために必要なお金や人を集めることも難しく、できることには限りがあります。また、江戸時代のやり方に^{もと}戻しても、問題は解決しないでしょう。現代の世の中にあつた^ふくふうが求められているのです。君たちも少し考えてみませんか。タカシ君は次のように考えました。

* * *

地域の問題って、どう解決したらいいのだろう。ぼくは山形県に住んだことがないから、山形県の地域のことはよくわからないけれども、山形県に住んでいる人は自分たちの地域をどんなふう^{けんさく}に考えているのだろう。そう思って、インターネットで「地域」や「町づくり」という言葉で検索してみた。予想以上に多くの件数だった。みんな、自分の住む地域のことをいっしょうけんめいに考えているんだな、と思った。そういえば、こ ぼくは自分の住んでいる地域のことをあまり考えたことがないし、ぼくの家族の間でもあまり話題になったことがないような気がする。昔は山形県に住んでいて、今はぼくと同じ地域に住んでいるおばあちゃんは、どんなふう^{けんさく}に考えているんだろう。そう思いながら、あらためて山形県の地域ごとの取り組みを読んでみると、さ 地域に住む人たちのこだわりや、どんなことを解決しようとしているのかということが、少しずつわかってきた。ぼくは、もう一度おばあちゃんと話をしようと思った。おばあちゃんからどんな話が聞けるのだろうか、ちょっと楽しみだ。

〈タカシ君の検索した資料〉

新庄市での取り組み

山形県新庄市にある商店街では、商店街全体で100円均一販売^{はんばい}を行う「100円商店街」という企画が行われている。この企画は普通の100円ショップと違い、もうかることを目的としているわけではない。有名人を呼んできて行われるイベントのように、特別な費用がかかることもない。商店街で売っているものを100円で売っただけなので、100円均一という親しみやすさに興味をもった人に、商店街のふだんの姿を見てもらうことができる。まずは商店街に来てもらい、どのような商品を売っているのかを知ってもらう。イベントをきっかけに商店街を利用するようになったという話も聞く。

「100円商店街」をやるときは、通り沿いに100円の店をびっしり並べる。店のないところには、近所の人たちや周辺の農家に呼びかけてリサイクル用品の販売所を作ったり、農産物の直売所を設けたりする。この企画を支えるNPOは、ホームページを通して新庄市のようすについて発信し、この取り組みを全国に広めようとしている。

朝日町での取り組み

博物館（ミュージアム）といえば、立派な建物を作り、展示物を集め、専門の研究者や職員によって運営されるのが普通である。しかし、近年、地域全体を一つの博物館にしようという動きがある。これをエコミュージアムといい、山形県朝日町にその例がある。史跡^{しせき}はもちろんのこと、地域の特産品を作る農家や、伝統工芸品を作る作業場もエコミュージアムの「展示物」の一つである。わざわざ展示物を買集めたり、特別な職員をやとったりするわけでもない。地域の住民一人一人が博物館の職員になったつもりで、「展示物」の保存作業を行ったり、観光客が見て楽しめるようにしたりして、地域の特色をアピールするのが、エコミュージアムだ。地元の特産であるワインやりんご、その他の工芸品を売る場合も、直売所を設けるだけでなく、エコミュージアムとして観光客が参加したり体験したりできる企画を考え、実行している。この取り組みのようすは、町の公式ホームページで紹介されている。

地域活性化のために観光客を呼ぼうとする動きは、行政機関もしばしば行っている。しかし、その場合は行政機関がお金をかけたところしか、利益を受けることができない。大半の住民は他人^{たにん}事として受け止めてしまうことが多い。朝日町の場合は、住民からエコミュージアムの実現へむけての運動が起り、その運動を支援する形で行政機関が動いている。この運動に取り組むNPOでは、行政機関の行う政策がエコミュージアム活動の障害となつてはいけなないので、まず住民と協議するよう、行政機関に求めている。

問1 山形県について。

- (1) 山形県の東側の県境を南北に走る山脈の名前を答えなさい。
 (2) 山形県に接している県の名前をすべて答えなさい。

問2 下線部あについて。表1は、東京の青果市場に毎月どれくらいのきゅうりが入荷されるかを、地方別に示しています。東京の青果市場の人たちは、一年を通して東京で必要なきゅうりをまかなうために、仕入れにどのようなふうをしているのでしょうか、答えなさい。

表1 2006(平成18)年 東京の青果市場におけるきゅうり地方別取り扱い量(トン)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
関東地方	2036	2925	5127	6010	7277	5509	1307	432	2984	5429	3726	1990
東北地方	0	3	36	198	691	2098	5628	7873	4414	1141	121	1
九州・四国地方	2537	1645	848	312	165	89	2	2	1	84	1290	2182

※入荷量の多い上位14県の数字を地方別に合計したものです。

問3 下線部いについて。さくらんぼは春から夏にかけて収穫される果物ですが、山形県のさくらんぼの生産高は、全国の7割以上をしめ、とても人気があります。山形県のある農家はインターネットを使ってさくらんぼを販売しています。この農家はさくらんぼを販売するうえで、どのようなふうをしているのでしょうか、表2をよく見て説明しなさい。

表2 さくらんぼの値段

全国の青果市場における値段の平均値(1kg)		1481円
山形県のある農家がインターネットを使って販売する値段(1kg)	紙製の箱にバラで入れたもの	6930円
	紙製の箱に手で並べて入れたもの	13860円
	木製の箱に手で並べて入れた限定品	39900円

問4 下線部うについて。立石寺について説明した下の文章のうち、空らんア、イにあてはまる語句を漢字で答えなさい。

立石寺は、山寺とも呼ばれ、古くから親しまれてきました。江戸時代、松尾芭蕉は、この寺を訪れ、「閑さや 岩にしみ入 蟬の声」という俳句を残しています。

平安時代、(ア)という僧が、比叡山に延暦寺を建て、(イ)宗という仏教の宗派を日本で広めました。立石寺は(イ)宗の僧が山形県に建てたお寺なのです。

問5 下線部えについて。中国は自分の国よりも東にある地域を「東夷」と呼び、いやしくおとつた存在だとしていました。日本も「東夷」の一つとされていたのです。日本の朝廷は中国に遣唐使を送るとき、「蝦夷」を連れていき、中国の皇帝に「蝦夷」を見せました。これはなんのためだったのでしょうか、答えなさい。

問6 下線部おについて。

- (1) 江戸時代、日本海では北前船などの水運が発達しました。このことは、最上川流域に住む人びとにとって、どのような利点がありますか、答えなさい。
 (2) 下の地図は日本海を通る北前船の通航路です。地図上に示された港ア～ウを説明した文章としてふさわしいものを、それぞれ下の①～⑤から選び、記号で答えなさい。

- ① 周囲には造船業で栄えた港もあり、造船関連の品物や綿、塩を積み出した港。
 ② 日本海を北上する直前に、食料などを準備するために利用された港。
 ③ 船が大型になり、長距離の運航ができるようになると、衰退してしまった港。
 ④ 紅花や米を船に積み込むことで栄えた港。
 ⑤ にしんやこんぶを降ろし、陸路で他の土地に運搬するときの拠点になった港。

地図



問7 下線部^かについて。明治政府は中央集権化を進めるために学制^{はつぽう}を^{はつぽう}発布しました。全国に学校が作られ、1903 (明治 36) 年からは全国で国が定めた同じ教科書が使われるようになりました。昭和初期に使われた小学校 1 年生の国語の教科書は、次のような書き出しでした。

「サイタ サイタ サクラ ガ サイタ」 (『小学国語読本』 巻一 より)

小学校では、4 月に入学すると、この文章をみんなで声に出して読むことから国語の学習が始まりました。こうした教育には、地域や地方の特色を無視したところがあります。なぜ地域や地方の特色を無視した教育といえるのでしょうか。山形県のことを考えて、二つ答えなさい。

問8 下線部^きについて。地域の特色の一つとして、お祭りの踊り^{おど}があります。以下にあげるア～エのうち山形県のものを選び、記号で答えなさい。

[ア エイサー踊り イ よさこい踊り ウ 阿波踊り^{あわ} エ 花笠踊り^{はながさ}]

問9 下線部^くについて。紅花^{せんりやう}は染料の原料です。本文にあるように紅花はおもに京都の商人に売られました。それはなぜですか。江戸時代の京都の特色を考えて、答えなさい。

問10 下線部^けについて。庄内藩では、財政難におちいったとき、年貢米の取り立てに力を入れようしました。しかし相次ぐ年貢の引き上げで商人から借金をする農民が増えていました。そこで、藩主は家臣や有力な商人に、対策を考えるよう呼びかけました。その結果、武士と商人から案が出され、どちらの方がよいか議論になりました。武士が考えた対策と商人が考えた対策とについて、共通点と違う点は何ですか、それぞれ答えなさい。

武士が考えた対策

- ・農民は、商人から借りたお金に利子をつけて返す必要はない。
- ・藩主、武士、農民など藩内のみんなで節約に努める。

商人が考えた対策

- ・藩は低い利子で農民にお金を貸して、商人からの借金と利子とを返済させる。農民に貸すために必要なお金は、藩が有力な商人から借りる。
- ・藩は、お金を貸してくれた商人の特産物の取引を増やして、商業を活発にする。

問11 下線部^こについて。タカシ君の家族は、地域のことを具体的に考えたり、地域での活動に参加したりすることがあまりないようです。このような人びとが多く住む地域では、地域で起こる問題をどのように解決しているのでしょうか。下の [] の中にあげた言葉から一つ以上を使って、60 字以上 100 字以内で説明しなさい。ただし、句読点も 1 字分とします。

[騒音^{そうおん} 防犯 育児^{かいこ} 介護]

問12 下線部^さについて。

- (1) 6 ページにある新庄市や朝日町での取り組みの中から、地域の人びとが自分たちの力で地域の生活を成り立たせようとするくふうを二つあげなさい。とりあげるくふうは、両方の取り組みに共通するものでも、片方だけにみられるものでもかまいません。
- (2) 君は (1) でとりあげたくふうが地域の生活を成り立たせようとするものだと、なぜ考えたのですか。その理由を 80 字以上 120 字以内で説明しなさい。ただし、句読点も 1 字分とします。

〈問題はここで終わりです〉